

<平成30年度 ハローオリピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

埼玉県 狭山市立狭山台中学校





平成21年4月の学習指導要領の改訂以来、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されています。その中で、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容には、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」とオリンピックの意義が明示されています。そこで、JOCでは、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められており、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことのできない感動が生まれることを期待しております。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

また、「スポーツ基本法」の前文の一部には、「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習することで、この基本法に記された精神や態度が日常生活の中で具現化され、生涯にわたってスポーツに親しむことができるようになることを願っています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピアン自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピアンだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピアンはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成30年4月～平成31年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 60校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備運動（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を受け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

実施内容

■期 日：平成30年6月6日（水）

■ク ラ ス：2年2組（38名）

■オリンピアン：村上 佳宏 先生（近代五種）



■授業のながれ：運動の時間（1時限）

1. 自己紹介～授業の目的確認



・自己紹介の後、近代五種競技の種目、由来について説明。今日の授業の約束事として「元気良く、楽しく、明るく取り組むこと」、「ルールに沿って取り組むこと」を伝えた。その後オリンピックバリュー（エクセレンス、フレンドシップ、リスペクト）について、エクセレンスは「挑戦」、フレンドシップは「友情をはぐむこと」、リスペクトは「ルールを守り、競技に携わる人や支えてくれる人へ感謝すること」と説明した後、準備体操に移る。

2. 準備体操



3. 主運動



・レーザーラン（紙コップ積み・全3回）を実施。
ルール：①1人2つ紙コップを持ち、20m程離れた机の上に紙コップを積み上げる。②ゴール順位（1位5点、2位4点、3位3点、4位2点、5位1点、6位0点）と積み重ねたコップの段数の合計点で順位を決定。③紙コップを倒してしまったら、積み直しせずそのまま重ねていく。④コップを潰したり、形状を変えてはいけない。⑤積み上げ方は各班自由に考える。

4. まとめ



・運動の時間を通じて、「エクセレンス＝果敢に挑戦することが出来たか」「フレンドシップ＝友情を育むことが出来たか」「リスペクト＝ルールを守ることが出来たか」を問いかけ、運動の時間を振り返りながら教室に戻ってほしいと伝え、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（2時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



・運動の時間で感じたことがオリンピックバリューにどのようにつながっているかを、座学の時間を通して考えようと授業の目的を確認。村上先生が出場した北京大会の映像を見せながら、近代五種競技について説明。村上先生がオリンピックに出場するまでに感じたオリンピックバリューについて伝える。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



・発問：運動の時間を振り返り、オリンピックバリューについて考える。
 発表：最後まで諦めずに挑戦できた、失敗を恐れず挑戦することができた（エクセレンス）、ゴールするまで応援した、班の皆で一つになり協力したり励まし合ったりできた（フレンドシップ）、ルールを守って取り組むことができた、共に挑む仲間に敬意を払い全力で協力することができた（リスペクト）等の意見が挙げられた。

4. まとめ



・人と人とは必ずどこかでつながっていて、自分は一人ではなく、周囲に助けられていることを知り、友情を育み縁を大事にすることで、つらい時に必ず誰かが助けてくれる。困ったことがあれば友人や親、先生に相談し、悩みが解決したらその人たちに感謝すること、オリンピックバリューは皆の日常生活にも必ずつながっていることを忘れないでほしいと伝え、授業終了。

実施内容

- 期 日 : 平成30年6月6日 (水)
- ク ラ ス : 2年3組 (38名) 、2年4組 (37名)
- オリンピアン : 宮下 純一 先生 (水泳・競泳)



■授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



・宮下先生から自己紹介し、運動と座学の時間を通じてオリンピックを身近に感じてほしいと授業の目的を確認。オリンピックシンボルに込められた意味を説明した後、準備体操へ移る。

2. 準備体操



3. 主運動



・2班ずつ3チームに分かれて大縄跳び (90秒間×3回) を実施。各チーム全員跳び、8の字跳びのどちらかを選び、全員跳びは跳んだ回数に人数をかけた数、8の字跳びは跳んだ回数を得点とする。引っ掛かったら0から数え直すこととし、終了の合図が鳴った時 (またはその直前) の得点を発表する。1回目、2回目の合計得点の多かった2チームで決勝戦を行う。工夫した点を尋ねると、「ゆっくり確実に跳んだ」、「失敗してもすぐに気持ちを切り替えて跳んだ」等の意見が挙げられた。

4. まとめ



・大縄跳びの結果を振り返り、ルールをきちんと理解したり、他チームの様子を見たりすることで、様々な作戦を考えて、回数を増やすこともできたのではないかとアドバイスする。オリンピックを目指している選手は、同じように試行錯誤しながら取り組んでいると話し、次の座学の授業では、宮下先生がオリンピックを目指す過程で、どのような努力をしたか紹介すると予告し、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



・北京大会の代表選考会の映像を見せながら、5歳から競技を始め、北京大会に出場するまで20年間水泳を続けたことや、小中学校の文集に「オリンピックでメダルを獲ると書いていたこと等を紹介し、競技生活では苦しいことの方が多かったが、目標があったから続けることができた」と話し、宮下先生ことへのオリンピックバリューについて説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



・発問：日常生活の中で感じるオリンピックバリューを考える。
発表：初めは上手いかなかったが練習を重ねるうちに上達した、全く打てなかった時期があったがフォームを変えて練習したところ、最後の大会でホームランを打つことができた（エクセレンス）、試合中ドンマイ・ナイスと声を掛けた（フレンドシップ）、ケガをして諦めそうになつたが親に支えられて自主的に練習をしたことで、サッカーの試合にも出られるようになった（リスペクト）等の意見が挙げられた。

4. まとめ



・東京2020大会では、多くの困難を乗り越え、仲間に支えられ、仲間に敬意を払って競技を続けてきた世界のトップアスリートたちが日本に集まるので、プレーや結果だけでなく、その選手が乗り越えてきたこと、関わってきた人等を考えながら見てほしい。オリンピックを盛り上げたいという思いを持って東京2020大会を迎えてほしいと伝え、授業終了。

実施内容

- 期 日 : 平成30年6月7日 (木)
- ク ラ ス : 2年1組 (37名)、2年5組 (37名)
- オリンピアン : 松本 弥生 先生 (水泳・競泳)



■授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



・簡単に自己紹介をした後、今日は楽しく、元気よく取り組んでほしいと伝える。オリンピックバリューについて、エクセレンスはベストを尽くすこと、フレンドシップは仲間と協力し合うこと、リスペクトはルールを守ることと説明し、運動の時間でも意識してほしいと伝え、準備体操へ移る。

2. 準備体操



3. 主運動



・2班ずつ3チームに分かれて8の字跳び (90秒間×全2回) を実施。引っ掛けたらゼロから数え直すこととし、制限時間内に一番多く連続して跳べた回数を競う。各回終了後に回数と各チームが作戦タイムで考えた工夫点を発表し、「声を出して、リズムを取って跳んだ」、「焦らずに自分のペースで跳べるタイミングで跳んだ」、「縄を回すのが上手な人に交代した」等の意見が挙げられた。

4. まとめ



・運動の時間を通して意見を出し合い、お互いを理解し合っていたことや、失敗しても励まし合って挑戦できていたことがすばらしいと伝える。次の座学の時間ではオリンピックバリューについてより深く掘り下げて考えよう予告し、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



・松本先生が現役最後に出場した50m自由形のレース映像を見せながら自己紹介。オリンピックシンボルに込められた意味を紹介した後、松本先生がオリンピックに出場するまでの経験を通して感じたオリンピックバリューを説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



・発問：クラスをより良くするために実践できることをオリンピックバリューに当てはめて考える。
 発表：一人一人が全力を尽くす、プラス思考、諦めない、クラスのイベントに全員で参加する（エクセレンス）、友情を深める、仲間を思いやる、友達の個性を認めてその個性を活かせるようにする、声を掛け合ってコミュニケーションを取る（フレンドシップ）、一致団結する、お互いを認め合う、みんなの良いところを見つける、校則を守る（リスペクト）等の意見が挙げられた。

4. まとめ



・運動と座学の時間を通して、普段から仲が良く自然と協力し合い、仲間意識があり、すごく仲の良いクラスだと感じた。今後の学校生活でも、オリンピックバリューを意識しながら、お互いを認め合って、より良いクラスにしてほしいと伝え、授業終了。



■ 集合写真

2年1組



2年2組





■ 集合写真

2年3組



2年4組





■ 集合写真

2年5組





■ 記念品贈呈

2年1組



2年2組



2年3組



2年4組



2年5組



■ 修了書贈呈

